

【10-3-6】 主要科目の特長（外国語学部英米語学科）

英米語学科のカリキュラムを構成する各科目群・分野の内容は次のとおりです。

(1) NGU 教養スタンダード科目

キリスト教に関する科目

＜キリスト教＞に関する科目は、キリスト教主義大学である本学の核心です。必修科目の「キリスト教概説」「キリスト教学」では、世界の文明に大きな役割を果たしたキリスト教を、人間、歴史、社会、生命などとの関わりにおいて考え、世界に通用するしっかりとした人間観・世界観を築く足がかりとします。

自己理解と自己開発に関する科目

1年生の必修科目である「基礎セミナー」では、少人数クラスで「大学で学ぶことの意義」についてを理解し、有意義な大学生活を送る足がかりを形成することを目的としています。さらに、大学での学びを促進させるスキルの習得をめざして、授業を受ける技術、プレゼンテーションの技法、情報検索の方法など、2年次以上のゼミナール活動の基本となるスキルについて学ぶことを目標としています。また、「キャリアデザイン 1a～3b」などの科目を配置して、「将来なりたい自分とは何か」についてしっかりしたイメージを養うとともに、職業を考え将来のキャリアを設計するための足がかりとします。

社会的教養に関する科目

＜人間理解＞、＜社会理解＞、＜自然理解＞、＜歴史文化理解＞、＜環境理解＞、＜身体理解＞（＜身体理解＞）、＜地域理解＞

自分で考える力を養い、深みのある人間性を身につけるためには専門の学修だけでなく、一般教養の修得が欠かせません。文学、哲学、心理学を学ぶ＜人間理解＞、社会のしくみを考える＜社会理解＞、自然をさまざまな角度からながめる＜自然理解＞、人間や世界の文化や歴史を学ぶ＜歴史文化理解＞、地球環境や生態系について考察する＜環境理解＞、スポーツの実技と理論、健康について学ぶ＜身体理解＞（＜身体理解＞）、まちづくりを多様な視点から考える＜地域理解＞の中から、バランスのよい履修を心がけてください。

言語とコミュニケーションに関する科目

外国語については、「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」の6カ国語を学ぶことができます（リハビリテーション学部、スポーツ健康学部は英語科目のみ）。また、「手話」や「日本語表現上級」も学修することができます。

情報理解に関する科目

情報教育の充実は、本学の大きな特色です。全学生にノートパソコンを配付し、すべての学生がコンピュータを使って学べるように指導しています。必修科目の「情報処理基礎」では、コンピュータやネットワークの基本的な利用方法を半年間でマスターします。

教職に関する科目

ここに設置されている科目は教員免許取得をめざして教職課程に加入している者だけが受講できる科目です。実際に教員免許を取得するためには、教職課程履修規程にもとづき、この領域の科目に加えて、その他の指定された科目を履修する必要があります。

(2) 専門科目

2-1) 学部科目

《学部科目》は、本学部でぜひ学んでいただきたい、英語や言語についての科目から成り立っています。言語は文化や社会と密接に結びついたものであり、英語の《学部科目》には、教養ある話し手になるためにみなさんに知っていてもらいたい内容を提供する科目です。《学部科目》には、英語学習に役立つ情報も多く含まれています。

2-2) 学科専門科目

《学科専門科目》は、演習（3～4年次必修）と次の3つの科目群からなっています。

① 基礎科目群

この科目群は英語の skills を定着させ、さらに磨きをかけることを目的とした＜英語力教科科目＞からなっています。これらの科目は少人数制で編成され、英語の実践的な能力（「話す、聞く、書く、読む」の4技能）を養うことを目的とします。このため、1年次必修科目の「英語」科目では、各学期に週4回（各90分）の授業をネイティブスピーカーの教員と日本人教員の連携により進めます。これまでの英語学習の基本的な部分に不安を感じている学生のために、習熟度別クラス編成を採用しています。基礎力をチェックし自信をもてるような内容です。うまく活用して英語力を伸ばすようにしましょう。

② 発展科目群

この科目群は＜基礎科目群＞で得た技能を土台として、より実践的な英語力の獲得をめざす＜英語力発展科目＞からなっています。「英語：プロジェクト」はコミュニケーションスキルと言語知識を統合する科目で、自分の英語力をフルに活用して各学生が自分の興味に応じて選択したテーマについて調査しプロジェクトワークをおこないます。コスミック英語などの Hobinglish 科目や、ツーリズムなどで用いる実用的な英語を学ぶ科目、さらに、留学のための TOEFL（留学英語中級・上級）や就職で求められる TOEIC

の対策コースも用意してあります。実践的な「英語で」講義に参加する<英語で学ぶ科目群>はいわば留学して授業を受けているのと同じです。英語学修自体が目的ではなく、英語を用いて授業に参加することによって、実践レベルでの英語運用力の開発をめざします。

③ 応用科目群

《応用科目群》の特徴は社会を意識させる科目群であると言えます。社会のしくみや世界情勢などを学ぶ<国際社会入門科目>と、就職ならびに業界・業種研究に繋がる<キャリア形成科目>からなっており、みなさんは大学での学びと社会とを結びつけることができます。後者は、英米語学科生に人気のツーリズム関係の科目（エアライン講座科目を含む）、英語教員をめざすための科目、ビジネス関係の科目が揃っています。英語運用力だけでは社会で活躍することはできません。この《応用科目群》を履修しながら、自分の将来について考え、キャリア形成に繋げることができます。

なお、《学科専門科目》には演習と上記 3 つの科目群の他、《外国文化体験科目》があります。この科目（「海外事情 1～16」「外国事情 A～D」）は留学による単位認定のための授業科目です。

④ 正課外としてベルリッツとタイアップした超少人数英会話

必修科目で磨いた英語力をさらに向上させたい人たちは、1クラス 4 名の超少人数英会話教室を正課外科目として開講しています、世界的に有名な語学学校のベルリッツと開学から 50 年英語教育法を蓄積してきた本学がコラボレートした英会話トレーニングで、さらに高度な英会話力を身につけることができます。

(3) 演習科目

① 基礎セミナー

3、4 年次の演習とは別に、1 年次春学期には「基礎セミナー」を履修します。これは、新入生のみなさんが新しい大学生活を始めるための第一歩をお手伝いするための科目です。具体的には、名古屋学院大学はどんな大学なのか、大学ではどのように学習していけばいいか、レポートの書き方、発表のしかたなどについて学びます。

② 演習（ゼミ）

英米語学科では、3 年次から「演習（ゼミ）」に参加して、卒業にいたるまでの 2 年間、専門的な研究活動をおこないます。卒業するために、「演習」は 3、4 年次の 2 年間続けて履修しなければなりません。「演習」はみなさんの英米語学科での学修の中核に位置し、学生生活の集大成をおこなう授業科目です。指導教員の指導のもと、自らの関心を広げ、課題を発見し、研究や議論を通じて問題を解決しながら、自らの能力の向上に努めるとともに、人格的な交流をとおして、多くの友人関係を育成し、また、指導教員との間に

みなさんの学修にとって有意義なコミュニケーションのパイプを形成してください。

「演習」は、指導教員と学生、あるいは学生相互間での学問的な意見交換の場であり、各学生が主体的に活動を進めていく点が、他の授業科目と根本的に異なります。ここでは、自己の学問的見解を進んで発表し、これに寄せられるさまざまな意見を聞くことによって、専門的知識の水準を高めていくことが必要です。「演習」で作成される卒業論文は、みなさんにとってはじめての本格的な論文作成となり、貴重な経験として、卒業後も役に立つことになるはずです。

また「演習」ではみなさんの進路指導もおこないます。指導教員、他の学生（または先輩学生）と相談をしながら進路を選択し、履歴書やエントリーシート作成、面接の準備などをおこないます。

◎専門科目の一部をピックアップ

英語プロジェクト I～IV

自ら選んだトピックに対して情報収集・調査を行い、英語でレポート作成や発表を行います。英語を話す、聞く、書く、読むという4技能が磨かれるのはもちろん、社会で必要とされる問題解決能力および英語でのディスカッションや発表スキルも身につきます。

エアライン英語

航空業界を目指す人たちのための授業です。さまざまな課題やアクティビティを通じて、エアライン業界の基本的な背景や知識について英語を使って学ぶほか、空港・航空会社で働く場合に必要とされる実践的な英語スキルを身につけます。

ツーリズム研究

観光業界への就職希望者や、観光行状・観光振興の将来的な担い手のために、業界で求められる知識・能力を備えた人材の養成を目指します。動画視聴やオンライン授業も活用しながら、観光ビジネスの具体的な取り組みや奥深さ・面白さも学びます。